

～ 志をもち、郷土を誇りに思い、郷土の誇りとなる ～
「自己肯定感 (やればできる)」 「自己有用感 (人、社会の役に立つ)」 の高揚

1 月に出すことができず、申し訳ありませんでした。

始業式 (1 / 9) 各学年代表が発表した内容です。

	1 年生	2 年生	3 年生
2 学期までを振り返り、3 学期に花を咲かせようとする 気持ちが表れていました。皆様のご支援をよろしくお願ひします。	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2 学期の反省をもとに、2 年生へとつなげる。 提出物→呼びかけ、帰宅後、学習する。 立腰を意識する。 生徒会の仕事を協力し、よりよいものにしていく。 後輩が入ることを意識し、頼れる存在になっていく。 毎日を大切にし、充実した日々に。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の締めくくり 3 年生への準備をしていく。 立腰を心がける。→授業への集中力を高める。 中途半端にならない。 責任を持って仕事を果たす。 3 年生が任せられる存在になる。 学級目標“アオハル”の達成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 三中最後の 3 学期。それぞれが道を決める。 9 人で頑張ってきたまとめの 2 か月半を大切に過ごす。 メディア、規則正しい生活を、一人ひとりが考える。 受検は団体戦だ。 三中の伝統の引継を 日々の姿で下級生の手本になる。



R6 年度からの部活動について

- I 拠点校部活動方式が始まります。
 - 自校にない部活動のみ参加できます
 - 拠点校は、福江中学校のみです。
- II 全員部活動制を廃止します。
 - ※可能な限り、参加してほしいと願っています。
- III 一般のクラブ活動チームで県中体連が主催する大会に参加できます。
 - 県中体連に申請し、認められたクラブチームのみです。



○令和 6 年 2 月 1 日付けで、中 1, 2 年生保護者の皆様に文書にてお知らせさせていただいています。また、生徒への説明及び新入生への説明もさせていただいています。ご不明な点等がありましたら、学校へご連絡ください。

お知らせ

2, 3 月の主な行事予定

月	日	曜	行事等
2	1	木	公立高校前期選抜
	2	金	新入生説明会
	3	土	県新人大会バレーボール競技(～4日)
	4	日	市PTA研究大会
	8	木	避難訓練(地震・津波対応)
	11	日	建国記念の日
	12	月	振替休業日
3	23	金	天皇誕生日
	27	火	学年・学級PTA(1, 2年生)
	6	水	公立高校後期選抜(～7日)
	9	土	バレーボール五島選手権
	13	水	同窓会入会式
	14	木	第77回卒業証書授与式

校長のひとこと

15 年程前、約 1 か月間日本各地の先生方と研修する機会をいただきました。研修の数年後の 2011 年 3 月、東日本大震災が起きました。大きな被害を受けた地域に、一緒にいた先生が勤務していました。連絡もなかなかつかず、約 1 か月後にやっと携帯電話で少し話すことができました。ご本人もご家族も避難生活を送られて大変苦勞しておられることはもとより、自校の生徒やその家族が亡くなられて大変ショックを受けており、そのケアに心を痛めていました。今また能登半島で地震が起き、多くの方々が被災されています。ある地域では授業再開の目途が立たないことから、希望する中学生が施設へ集団避難しました。残る不安もあれば、離れる不安もあることでしょう。被災地の方々の心情はいかばかりか…。一刻も早く復興してほしいと思います。亡くなられた方やご親族、関係者の方々には大変申し訳ないのですが、今回の地震や津波で助かった方も多くいます。東日本大震災を教訓に、できる限りの対策をしていたそうです。助かれた方のお一人が「偶然ではなく、訓練」とおっしゃっていました。日頃からの心構えや、常に想定しておくことの大切さを感じる言葉です。



メディアについて I (犯罪に巻き込まれないように)

本校では、毎朝健康観察を実施しています。その中の項目の一つに、メディア利用の時間もあります。これは、子どもたち自身に自分の生活を振り返り、よりよく改善していく意識を高めるためのものです。学校評価（生徒評価）において、メディア利用について、評価が低くなっていました。

メディアの利用は決していけないことではありません。しかし、利用の仕方を一歩間違えると、子どもたちが危険な目に遭うことも予想されます。

1月22日（月）の長崎新聞に「SNSが発端 子どもたち 性被害に」という見出しで、1面と社会面に記事が掲載されていました。「SNSに起因する犯罪被害に遭った未成年者（18歳未満の男女）…毎年2,000人前後」「県内でも…」など、具体的数値が出ていました。「摘発は氷山の一角」ともあり、実態はもっと多いと予想されています。

記事にはさらに「捜査や被害者支援に当たる警察官たちが気づき始めているのは、子どもたちの交友関係の特徴と最後の砦の存在」について記載されています。

交友関係の特徴

今の若い世代にとって出会った場所や居住地、年齢は関係なく、学友もネ友（ネット上で知り合った友だち）も同じ友だち。面識がなくても、ためらいなく信頼してしまうのが特徴。（※裸、下着姿の写真などの送信、性被害へとつながる）

最後の砦

「原因は自分にある」という負い目から「親に知られたくない」「自分さえ我慢すれば」と思い込み、被害が発覚しにくい。（中略）「自身の子供だけは大丈夫」と信じ込んでいる親世代がいる。（中略）「よい親子関係を築くのが犯罪被害を生まないための近道。子どもとよく話し、何をしているか関心を持って」。少年対策室の相川友理子室長はこう訴える。「最後の砦（とりで）は家族一」。

被害事例

児童ポルノ、児童買春などの被害が全国で発生!!

case1 自撮り被害に注意

女子小学生（9歳）は、SNSで知り合った男と親しくなっていくうちに「服を着替えられる？」等と言葉巧みに誘導され、スマートフォンで無料通信アプリで自分の裸の写真や動画を送信させられた。

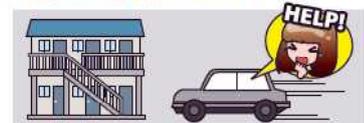


STOP! 他人に見られて恥ずかしい写真や動画を送ってはいけません。写真や動画を一度送ってしまうと、回収が困難で、取り返しのつかないことになります。

児童ポルノ/製造被害

case2 悩み相談から…誘拐された

女子中学生（14歳）は、SNSで知り合った男に、無料通信アプリで悩みを相談していたところ、「黙ってあげる」等言葉巧みに誘い出され、加害者の自宅に連れ込まれた。



STOP! インターネットで知り合った相手と実社会で会うと深刻な被害につながる可能性があります。インターネットのやりとりだけでは、相手の本当の素性はわかりません。

未成年者誘拐被害

case3 男子も被害にあっている

男子小学生（11歳）は、動画投稿サイトに自身が映る動画を投稿していたところ、加害者に目を付けられ、無料通信アプリを通じて、女の子になりすました加害者に自分の裸の写真を送信させられた。



STOP! 性被害にあっているのは女子だけではなく、男子も注意が必要です。

児童ポルノ/製造被害

case4 交際相手に裸の写真を拡散された

女子中学生（14歳）は、交際相手（15歳）に裸の写真を求められ、「送ってくれないなら別れる」等と迫り込まれて自分の裸の写真を送ってしまった。その後、交際を断ったところ盗撮みされ、インターネット上に自分の裸の写真を拡散されてしまった。



STOP! 裸の写真を一度送ってしまうと、それをネタに更にひどい被害を受けることになります。どんな理由をつけられても、誰にもそのような写真を送ってはいけません。

児童ポルノ/製造・提供被害

左にあるのは、警察庁HPの「なくそう 性被害」の啓発資料の一部です。

SNSを発端とし、被害に遭うパターンは何も性被害（男女問わず）だけではありません。知らないうちに金品の請求や犯罪に加担させられていたり、誘拐されたりするなど、多くの事案が起きています。

子どもたちを被害から守るのは、我々大人の役割です。子どもたちのメディア利用、時間だけでなく、利用の仕方にも気を配っていただきたいと思います。

※参考資料 警察庁

「https://www.npa.go.jp/policy_area/no_cp/prevent/materials.html」